

現代日本学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	近現代皇室表象研究	2	茂木 謙之介	前期 火曜日 2 講時	
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	「書物の文化史」研究入門	2	伴野 文亮	前期 水曜日 2 講時	
現代日本学学芸分析特論Ⅱ	「マンガ」とは何か	2	岩下 朋世	後期集中 その他 連講	
現代日本学歴史分析特論Ⅰ	日本史文献購読・英訳	2	クレイグ クリストファー	前期 火曜日 3 講時	
現代日本学社会分析特論Ⅰ	現代日本における家族と人口	2	田中 重人	後期 木曜日 2 講時	比較現代日本論特論Ⅰ
現代日本学日本哲学特論Ⅰ	インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観	2	フォンガロ エリコ	後期 木曜日 5 講時	
現代日本学研究特論Ⅰ	近現代における美術と宗教の関係	2	君島 彩子	後期 水曜日 2 講時	
現代日本学総合演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介	前期 月曜日 5 講時	
現代日本学総合演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介	後期 月曜日 5 講時	
現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	人物史から考える日本の近代・現代	2	雲然 祥子	前期 金曜日 2 講時	
現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	近代日本史における震災	2	クレイグ クリストファー	後期 火曜日 3 講時	
現代日本学社会分析研究演習Ⅰ	現代日本における社会問題の分析	2	田中 重人	前期 木曜日 2 講時	比較現代日本論研究演習Ⅰ

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LM12201 科目ナンバリング：LJS-OHS601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代皇室表象研究
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of Japanese Royal family
3. 授業の目的と概要：本講義では、近現代皇室の表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的には 2010 年代の天皇と皇室をめぐる様々なイメージを検討し、それらが近現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Modern Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family in the 2010s and think about the meaning of those images in modern Japanese society. This course calls for audiences active participation.
5. 学習の到達目標：近現代の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of modern Japanese royals,
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
内容及び進捗予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 天皇制と表象
第 3 回 天皇・皇室表象の“限界”
第 4 回 「ビデオメッセージ」の政治学
第 5 回 改元と政治
第 6 回 改元と地域社会
第 7 回 改元と SNS
第 8 回 アイドル文化と天皇①
第 9 回 アイドル文化と天皇②
第 10 回 ポップカルチャーと天皇①
第 11 回 ポップカルチャーと天皇②
第 12 回 天皇とオカルト的想像力①
第 13 回 天皇とオカルト的想像力②
第 14 回 「令和流」の可能性
第 15 回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：伴野 文亮

コード：LM13201 科目ナンバリング：LJS-OHS601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「書物の文化史」研究入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Studying of Japanese Cultural History using historical books
3. 授業の目的と概要：書物研究の方法と実践を習得し、新しい日本文化史研究の基盤を形成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will master the methods and practices of Studies of historical books and will form the basis for a new Studies of Japanese Cultural History.
5. 学習の到達目標：「書物」を史料として用いた新しい日本文化史研究の視座を養う。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop a new perspective on the Studies of Japanese Cultural History using historical books as historical materials.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：はじめに—日本学の課題を考える—
第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス
第3回：人文科学の課題
第4回：歴史学の課題
第5回：文化史とは
第6回：日本歴史学のなかの文化史
第7回：書物研究の方法と課題①
第8回：書物研究の方法と課題②
第9回：書物を用いた日本文化史研究の実践①
第10回：書物を用いた日本文化史研究の実践②
第11回：書物を用いた日本文化史研究の実践③
第12回：書物を用いた日本文化史研究の実践④
第13回：書物を用いた日本文化史研究の実践⑤
第14回：日本学の可能性
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む) をもとに総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、授業ごとに資料を配付する。
参考文献は、授業中に随時紹介する。
10. 授業時間外学習：「書物の文化史」に関する基礎文献の把握に努める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：岩下 朋世

コード：LM98801 科目ナンバリング：LJS-OHS602J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「マンガ」とは何か

2. Course Title (授業題目)：What Is "Manga"

3. 授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn about the definition, history, and narrative of manga. Manga is a very popular culture in Japan. Because of this, we tend to think that we know something about "manga". However, it is actually very difficult to answer the question, "What is manga?". To illustrate this point, we take a variety of concrete examples, both old and new. Participants are encouraged to actively participate in discussions.

5. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the history and expression of manga. Learn the skills to analyze manga.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

内容及び進捗予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 「マンガ」のさまざまな定義

第3回 「北斎漫画」はマンガか？

第4回 コマと物語

第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に

第6回 マンガと出版文化①

第7回 マンガと出版文化②

第8回 手塚治虫と少女マンガ

第9回 少女マンガにおける異性装

第10回 マンガにおけるイメージと言葉①

第11回 マンガにおけるイメージと言葉②

第12回 萩尾望都「半神」を読む

第13回 マンガを読む-受講者による発表①

第14回 マンガを読む-受講者による発表②

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学歴史分析特論 I / Japanese Studies History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：クレイグ・クリストファー

コード：LM12301 科目ナンバリング：LJS-OHS603E, J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史文献購読・英訳
2. Course Title (授業題目)：Reading and Translation Fundamentals for Japanese History
3. 授業の目的と概要：購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing.
5. 学習の到達目標：将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

8. 成績評価方法：
翻訳・出席 [70%] 提出翻訳 [30%]
9. 教科書および参考書：
各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。
1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし
Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：現代日本学社会分析特論Ⅰ／ Japanese Studies Society (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LM24201 科目ナンバリング：LJS-OHS604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：比較現代日本論特論Ⅰ】

1. 授業題目：現代日本における家族と人口
2. Course Title (授業題目)：Family and Population in Modern Japan
3. 授業の目的と概要：特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Lecture on family issues in contemporary Japanese society based on sociology and related fields: law, economics, population studies, and so on. Topics will be as follows: analysis of kinship, form and institution of the family, marriage and divorce, childbirth and childrearing, lifecycle and the family, population change and the family change.
5. 学習の到達目標：現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand basic concepts and method to conduct research of contemporary Japanese society.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第1回：はじめに：社会分析のための知識と方法
 - 第2回：法と規範
 - 第3回：法的な情報を調べる方法
 - 第4回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論
 - 第5回：現代日本の家族法について補足説明
 - 第6回：人口統計と人口現象
 - 第7回：20世紀日本社会の人口変動
 - 第8回：講義前半の振り返り
 - 第9回：ライフサイクルの変化
 - 第10回：近代化にともなう社会変動
 - 第11回：工業化と都市化
 - 第12回：イエ制度の解体と個人主義化
 - 第13回：日本的経営と福祉国家
 - 第14回：講義後半の振り返り
 - 第15回：講義全体のまとめと講評
8. 成績評価方法：

授業中に課す課題および宿題による
9. 教科書および参考書：

なし
10. 授業時間外学習：各回の課題に対応する予習・復習と宿題
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学日本哲学特論 I / Japanese Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：フジカワ エリコ

コード：LM24501 科目ナンバリング：LJS-OHS605E 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese philosophy from an intercultural perspective
3. 授業の目的と概要：インターカルチャー的視点から日本哲学について、京都学派を中心として概観し、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to deepen the understanding of contemporary Japanese philosophy from an intercultural point of view, focusing on the so called “Kyōto School”.
5. 学習の到達目標：日本哲学とは何か、またその変遷について京都学派を中心として、重要なキーワードに沿って解説を行なう。それと同時に哲学と翻訳の本質的な結びつきに関して論じる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：What is “Japanese philosophy”? How did it develop? This course aims to try an answer to such problems through the introduction of some fundamental keywords. At the same time, it gives the opportunity to think about the essential link between “philosophy” and “translation”.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンライン（リアルタイム）で行います。
クラス コードは gvj6rin です。
第1回：インターカルチャー（間文化）とは（1）
第2回：インターカルチャー（間文化）とは（2）
第3回：日本哲学における翻訳の問題（1）
第4回：日本哲学における翻訳の問題（2）
第5回：日本哲学とは（1）
第6回：日本哲学とは（2）
第7回：現代日本哲学入門
第8回：日本哲学における「京都学派」
第9回：西田幾多郎とは
第10回：西田幾多郎の哲学（1） 純粹経験
第11回：西田幾多郎の哲学（2）『善の研究』
第12回：西田幾多郎の哲学（3）『善の研究』
第13回：西田幾多郎の哲学（4）『善の研究』
第14回：西田幾多郎の哲学（5）場所とその論理
第15回：西田幾多郎の哲学（6）西田の美学
8. 成績評価方法：
授業態度、発表、討論を総合して評価する。
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布する。西田幾多郎『善の研究』。
10. 授業時間外学習：課題文献を読み、授業内容をより深く理解すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学研究特論 I / Japanese Studies Research (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：君島 彩子

コード：LM23201 科目ナンバリング：LJS-OHS606J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代における美術と宗教の関係

2. Course Title (授業題目)：The Relationship between Art and Religion in Modern and Contemporary

3. 授業の目的と概要：本講義は近代以降の日本美術史における宗教の役割を論じたうえで、戦争や災害による死者慰霊（供養や追悼を含む）のために作られた美術作品の事例をあげ、残された生者の死者に対する眼差しを具体的に表現した「信仰のかたち」の考察を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture will explain the role of religion in the history of Japanese art since the modern era. I will also give examples of art works created for the memorial of the dead from wars and disasters (including Buddhist memorial services and memorials by the state), and examine the "forms of faith" that concretely express the view of the dead by the living who are left behind.

5. 学習の到達目標：・近現代の日本宗教美術史の概要を把握する。

・戦争や自然災害の犠牲者の慰霊を通じて、美術と社会の関わりを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Understand the outline of modern and contemporary Japanese religious art history.

・Understand the relationship between art and society through memorials to victims of war and natural disasters.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション：宗教と美術はどのように関係するのか？

第2回 近代の眼差しの中で発見された「宗教」と「美術」

第3回 廃仏毀釈後の美術制度成立

第4回 展覧会の興隆と新しい宗教美術

第5回 日露戦争から関東大震災へ

第6回 戦争の時代における死者慰霊と美術

第7回 慰霊と美術（広島の実例）

第8回 慰霊と美術（長崎の実例）

第9回 慰霊と美術（沖縄の実例）

第10回 慰霊と美術（戦争犯罪人の慰霊）

第11回 現代の死者慰霊と美術作品

第12回 慰霊と美術（東日本大震災後の事例①）

第13回 慰霊と美術（東日本大震災後の事例②）

第14回 新型コロナウイルスによる宗教美術への影響

第15回 総論

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：博物館や美術館での見学のほか、慰霊碑や仏像など学外での調査を積極的に行うことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学総合演習 I / Japanese Studies (Comprehensive Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介

コード：LM11501 科目ナンバリング：LJS-OHS607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第 3 回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第 4 回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第 5 回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第 6 回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第 7 回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第 8 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第 9 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第 10 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第 11 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第 12 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第 13 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第 14 回：日本学の課題についての総合討論①

第 15 回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：
発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。
参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介

コード：LM21501 科目ナンバリング：LJS-OHS608J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学研究の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learning to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：ハイブリッド

授業計画

第1回：はじめに—日本学とは何か—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：
発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。
参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I / Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：雲然 祥子

コード：LM15201 科目ナンバリング：LJS-OHS609J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物史から考える日本の近代・現代
2. Course Title (授業題目)：A Study of Modern Japanese History and Social Situation from the Perspective of a Life of a Person
3. 授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や業績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。
それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史料資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：When discussing and understanding Japanese history and social situation, one must always take into account the relevant background. In this course, the purpose is to study and understand about the history and social situation of modern Japan, with the case of a person's life (history and activities).
5. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。
様々な史料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。
現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To acquire historical knowledge, thinking and express ability.
To understand the social situation by analyzing and reading various historical materials.
To discover issues in modern society and organize opinions in appropriate words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項
 - 第 3 回 ケーススタディ (事例報告①)
 - 第 4 回 受講生による発表
 - 第 5 回 受講生による報告・議論①
 - 第 6 回 受講生による報告・議論②
 - 第 7 回 受講生による報告・議論③
 - 第 8 回 受講生による報告・議論④
 - 第 9 回 ケース・スタディ (事例報告②)
 - 第 10 回 受講生による報告・議論⑤
 - 第 11 回 受講生による報告・議論⑥
 - 第 12 回 受講生による報告・議論⑦
 - 第 13 回 受講生による報告・議論⑧
 - 第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ
 - 第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて
8. 成績評価方法：
授業中の課題 (20%)、報告・討論 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：史料・文献などを利用し、授業で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I / Japanese Studies History (Research Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：クレイグ・クリストファー

コード：LM22309 科目ナンバリング：LJS-OHS610E, J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代日本史における震災

2. Course Title (授業題目) : Disasters in Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：19 世紀から現在の災害を紹介し、歴史学及び社会学的に分析する。地震、飢饉、津波のような自然災害の外に、空爆や炉心溶融のような人工的な災害も含む。近代日本の代表的な災害を世界の災害の事例と比較し、グローバルヒストリーの文脈に分析する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course will introduce the history of disasters in Japan from the 19th century to the present and subject them to historical and sociological analysis. Alongside natural disasters like earthquakes, famines, and tsunami, the course will also treat man-made calamities like aerial bombing and nuclear meltdowns. By comparing representative disasters in Japan with their analogues around the world, this class will consider Japanese disasters in the context of global history.

5. 学習の到達目標：日本震災史に関する歴史学及び社会学、人類学的な問題と分析方法を意識する。震災に関する英語の研究を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標): The primary goal of the class is for students to learn the methods of understanding and analyzing disasters from the disciplinary perspectives of history, sociology, and anthropology. Students will also gain familiarity with English-language research on the topic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論：2011.3.11

第2回：日本における災害：概論

第3回：知物理学の支店からみる日本

第4回：江戸時代の飢饉

第5回：学生発表：飢饉

第6回：関東大震災：背景

第7回：関東大震災：結果

第8回：学生発表：震災

第9回：日本本土空襲

第10回：学生発表：爆撃

第11回：東北地方太平洋沖地震：背景

第12回：東北地方太平洋沖地震：結果

第13回：学生発表：津波

第14回：原子力発電について

第15回：学生発表：メルトダウン

8. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Readings will be distributed for each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：現代日本学社会分析研究演習 I / Japanese Studies Society (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LM14201 科目ナンバリング：LJS-OHS611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：比較現代日本論研究演習 I】

1. 授業題目：現代日本における社会問題の分析
2. Course Title (授業題目)：Research of Social Problems in Modern Japan
3. 授業の目的と概要：家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Seminar to develop students' skills for research of social problems in modern Japan.
5. 学習の到達目標：社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To acquire skills of the survey of literature and statistics, reading, logical and critical thinking, and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。
第1回：はじめに：この授業での課題設定と調査の方法
第2回：近代日本における家族制度・人口変動・社会政策の概要
第3回：課題設定のための討論
第4回：文献検索とデータベース利用
第5回：近代日本の統計システム
第6回：統計資料の評価と活用
第7回：各自のテーマと先行研究について報告と討論
第8回：近代史研究のための専門用語と理論体系
第9回：アイデアの創出
第10回：アイデアの交換と建設的批判
第11回：途中経過の報告と討論
第12回：プロジェクトとしての近代史研究
第13回：研究の倫理
第14回：発表会
第15回：発表内容についての講評および期末レポート作成に向けての注意事項
8. 成績評価方法：
授業中の課題 (30%)、途中経過等報告と討論での発言 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
佐藤望ほか (2020) 『アカデミック・スキルズ』(第3版) 慶應義塾大学出版会
10. 授業時間外学習：授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしたがって研究プロジェクトを進める
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業資料は <http://tsigeto.info/study/> に掲載予定。